

芸術科（音楽）「音楽Ⅰ」学習指導案

大阪府立〇〇高等学校

1. 日 時 令和4年6月29日（水）第1・2時限
2. 学年・組 第1学年3・4組（40名）
3. 題材名 ギターを使用したアンサンブルに挑戦しよう！
使用図書は、教科書：MOUSA1

4. 題材設定の理由

1学期前半に、ギターについての知識と個人の技能を高めた。1学期後半では、さらにギターに対する理解を深めるとともに、グループ活動を取り入れ、お互いに意見を出したり高めあったりしながら表現活動ができるようにすることで、アンサンブルのよさを味わわせたいと考え、本題材を設定した。

5. 題材の目標、学習指導要領との関わり

本題材は、高等学校学習指導要領の下記に基づいて構成している。

第2章第7節芸術第2款各科目 第1 音楽Ⅰ 2内容A表現（2）器楽

ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫すること。

ウ 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。

(ア) 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能

(イ) 他者との調和を意識して演奏する技能

(ウ) 表現形態の特徴を生かして演奏する技能

・グループで話し合い決定した作品の完成に向け、個人のイメージを持ち、音楽表現を創意工夫する、グループの演奏を互いに鑑賞し評価する。【思考力・判断力・表現力等】

・グループ全体で完成に向け、主体的・協働的に話し合いや合わせ練習を進め、活動を進める中で様々な音楽に触れ、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育む。【学びに向かう力、人間性等】

6. 教材

「かんたんコード10個」で弾ける！楽しいギター弾き語り60より

夢の中へ・チェリー・小さな恋のうた

月刊Pianoより チェリー

作成楽譜より 栄光の架橋

クロームブック

7. 教材観

初心者向けには、簡単なコードや少ない種類のコードで取り組むことのできる教材を、あらかじめピックアップし配付する。上級者向けには、Chromebookを使用したり、作成楽譜を使用したりする。曲選びも活動の一つであるので、幅広い選択肢を与えている。

8. 生徒観

省略

9. 指導観

個人の技能や知識を高めることも大切なことだが、グループでの活動を重ねることで、主体的・協働的に学習に取り組む態度を養うことができると考えている。過去の生徒たちの授業の感想にも「アンサンブルが一番楽しかった」「アンサンブルに取り組むことで新しい友達が増えた」「はじめはできあがるかなと不安だったけど完成した時はやってよかったと思った」「みんなで一つのものを作り上げることが楽しかった」など、と達成感を味わった様子が見えてきた。

指導にあたっては、初めて取り組むアンサンブルに向けて、練習の進め方やアドバイスを文章や掲示で示し、取り組みやすくなる工夫をしている。

10. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・アンサンブルを行うにあたっての様々な楽器の特徴や演奏方法についての理解を深める。 ・他者との調和を意識して演奏する技能を身に付けている。	・楽曲の音色、リズム、テクスチャを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 ・様々な楽曲の中から、自分たちのグループにふさわしい楽曲を選んでいる。	・グループでの音楽を創り上げる活動に関心をもち、主体的、協働的に練習や話し合いに取り組もうとしている。 ・他のグループの演奏を聴き、自分の考えで評価しようとしている。

11. 題材の指導と評価の計画（全5時間）

時	学習内容	主な評価規準【観点】・評価方法等
第1時	選曲 楽器選択	主体的・協働的に選曲している。【主体態度】観察 楽曲にふさわしい楽器選択をしている。【思・判・表】ワークシート・観察
第2時	個人練習	楽器の特徴や演奏方法を理解し、演奏する技能を身に付けている。【知・技】観察
第3時	合わせ練習	協働的に練習に取り組んでいる。【主体態度】観察
第4時	リハーサル	協働的に練習に取り組んでいる。【主体態度】観察
第5時	発表・鑑賞・評価入力	他者との調和を意識して演奏する技能を身に付けている。【技】演奏の聴取 他のグループの演奏を聴き、自分の考えで評価しようとしている。【主体態度】入力シート

12. 本時の展開

(1) 本時の目標（第5時）

- ・学んだことを生かし、他者との調和を意識して演奏することができる。
- ・楽曲の音楽を形作っている要素を知覚し、楽曲にふさわしい音楽表現を考えることができる。
- ・他のグループの演奏を聴き、自分の考えで評価することができる。

(2) 本時の評価規準

- ・様々な楽曲の中から、自分たちのグループにふさわしい楽曲、楽器を選んでいる。
- ・学んだことを生かし、他者との調和を意識して演奏することができる。
- ・他のグループの演奏を音楽のよさや美しさを自ら味わって聴き、適切な評価を行っている。

(3) 本時の準備物

使用楽器・録画機器・Chromebook・プログラム

(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
10分 導入	- Chromebookを使用した評価入力についての説明を聞く。 - 発表の方法についての説明を聞く。	Chromebookを忘れた生徒には評価用紙を配付する。	
30分 展開	- グループごとに発表する。 - 発表しない場合は、発表を聞き、その評価を入力（記入）する。	- 発表に向けての準備は、ゆっくり時間をかけて整えさせる。 - 達成感を味わうことのできるよう、演奏の前に生徒一人一人に声をかける。 - 気持ちよく演奏ができるように拍手を促す。 - 今が何番の発表であるかを伝える。 - 発表の様子を撮影し、動画で記録する。 - 入力ができているか机間指導する。	- 他者との調和を意識して演奏している。（演奏の聴取） - 重ねてきた練習の成果を本番で発揮している。（演奏の聴取） - 楽曲にふさわしい楽器を選んでいる。（ワークシート） - 他のグループの演奏を集中して聞いている。（観察） - 演奏に合った評価を入力している。（入力シート）
10分 まとめ	- 自分の発表や練習態度についての評価を入力する。 - 夏季休業中の課題「鑑賞プリント」についての説明を聞く。	発表の頑張りを評価する言葉を伝える。	

「観点別学習状況の評価」の判断基準の設定

評価規準	A 「十分満足できる」状況	B 「おおむね満足できる」状況	C 「努力を要する」状況 (支援のてでて)
	アンサンブルを行うにあたっての様々な楽器の特徴や演奏方法についての理解を深め、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付けている。	アンサンブルを行うにあたっての様々な楽器の特徴や演奏方法について理解し、演奏する技能を身に付けている。	演奏する技能を身に付けていない。 ⇒個別に指導を行う。

思考・判断・表現	様々な楽曲の中から、自分たちのグループにふさわしい楽曲を選び、その楽曲の音楽を形作っている要素を知覚し、楽曲にふさわしい音楽表現を考えている。	楽曲の音楽を形作っている要素を知覚し、音楽表現を考えている。	音楽表現を考えずに演奏している。 ⇒対話を繰り返し、生徒の考えを引き出す。他者を参考にするように指導を行う。
主体的に学習に取り組む態度	・主体的、協働的に練習や話し合いに取り組もうとしている。 ・他のグループの演奏を聴き、自分の考えで評価しようとしている。	・主体的もしくは協働的に練習や話し合いに取り組もうとしている。 ・他のグループの演奏を聴き、評価しようとしている。	・練習や話し合いに取り組んでいない。 ・グループそれぞれについて自分で考えて評価していない。(すべて5など) ⇒積極的に声かけを行い、自分の役割を認識させる。